

宮中園遊会に招かれて

五月晴れの去る十六日、赤坂御苑において催されました團遊会にお招きをうけ、参列させていただき秘終生の最良の日と感激しております。

一番に行きました所は道の右側に大きな天宮が張ってあるところ。その中には沢山の宮内庁の人々が

先ず園遊会のことを順を追って述べますと第一、当日の朝は七時頃まで朝食をすませること、第二、九時から婦人の髪の手入れを始め、続いて着付をすること、十一時に軽い中食をすまふこと、十一時半に個人の写真撮影、十二時に合同飲物でした。

撮影。十二時三十分宿舎出発。土六日の朝は前日注意があったようにかきりの時間に諸用を終り、威儀を正して十二時三十分、町村会館を出発、参入門に着きますと、両側に金モールの服を着た守衛が礼をしてくれました。下車して、前日渡された参入券を受付に差出すと、名札を左の胸に着けてくれました。それには「熊本県津奈木町助役松本金義」と記入されており、又家内にも夫人と

天窓の後方は溜池になって、池の向うには雅楽の用意が出来ており、附近一帯は、トダき程のけやきがうつそうと繁ってその間を路が四通していました。椅子に座っておりますと、私のすぐ隣に座られた人の名前を見ましたら、民社党の西尾正広様でしたのでびっくりしました。なかなか元氣のよい重みのありそうな人と思いました。次に歩いて行きますと、音楽隊がいました。半分も廻っていない



参内直前の松本夫妻

スポーツ白熱す

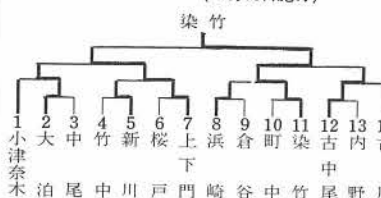
左の成績表を見られたら、この次の試合が待ち遠しいことだろうからお知らせしておきます。

	〇ベロロンと野球	八月（お盆）	〇眠伝とバレーボール	九月	〇陸上（町民体育祭）	十月十日
現在の得点は相撲、卓球、ソフ						
キイです。						

トボールの三種目の合計です。これから行う予定の五種目と合せて八種目の総合で優勝がきまります。いやはや、自分の部落が勝ってほしいものです。そう思えばこそ、次の試合にかける願いも大きいです。

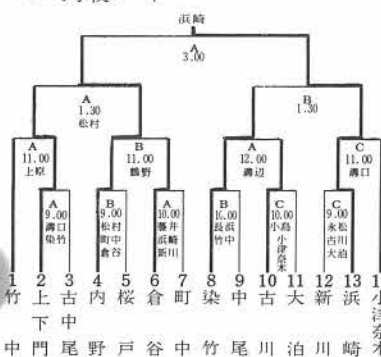
7中 四五点 8榮竹 四〇点
9上下門三九点 10古川 三四点
10小津奈木三四点
12竹中 三〇点 13町中 二六點
13桜戸 二六點 15平國下 一七點
平國上、川内、福浦、日当、日
添の五部落は得点なし。

第3回卓球大会組み合わせ
(5月18日施行)



第3回ソフトボール大会組み合わせ
(5月18日施行)

A 中学校1コート B 中学校2コート
C 小学校コート



注 2 回戦以降は負けチーム（星裏

私の母

津南中学校
三年五組
森山孝美

朝早くから、夜遅くまで働く母、それが私の母です。体はがっちり太っているかにも健康そうですが、そのわじりにはあまり丈夫ではありません。それには色々な苦勞のせいかもしれません。父の長い病院生活もありました。私達子供のしつけのせいもあると思います。髪の毛も白髪がたくさんふえてしまいました。

そこで、今まで育ててくれた母をもう一度、若い目の母に帰らせてあげようと思います。それには、心のごもった親孝行を実行するのが一番だと思います。そこで、それを実行して母のこれからの生活をもっと有意義に、そして楽にさせてやりたいと思います。

また、これを私の将来の実行すべきものだとも考えています。ところで、私の母は、正月などによく話をしてくれますが、その話の中でよく聞く言葉があります。それは、立派な精神を養い、人から信頼される人になれるという言葉です。この母の言葉は、忘れない時でも忘れられない母言葉です。また、時々妹と話されることがありますが、妹がよくこんな言葉を母に言います。それは、

「もっと早く生まれればよかった。」と言っています。すると母は何のことか、さっぱり、わかりません。わけは簡単にでして、「姉さん達が、アンマ器や洗濯機など、母ちゃんが薬になれる品物はそろえてしまっても何もやるものがない。」と言っているのです。私も妹と同感でした。ところが、母は「その心掛で充分、お前達が立派に育つてくれれば、薬になる品物よりも、もっとも薬になる。」と言ってくれます。そうすると本当にいい母をもって幸わせたという実感がわいてきます。

これから先も二十歳に若帰った気分です、私達を厳しくし
 かって母の権力というものを充分發揮しながらしつけても
 らい長生きしてもらいたいと思います。



たもんさんと思う

山本 栄喜



千々岩頼母さんの「逝去痛惜」：哀悼に貼えませぬ。

彼は九十歳位までは長生きするだろうと思つて楽しみにしていましたのに。少しも無理のない人でしたのにね。残念でした。

忙がしいためまとまりがな
く頼母さんを十分追慕する
には適當でない文章になつ
てしまふかと思ひますが……

私は彼をいつもたもんさんと呼び、彼は私を栄喜さんと呼んだので、「たもん」さんと呼ばして貰いたい。

頼母さんと私が始めて知り会ったのは大正二年の春、おたがい高等小学校を卒業して、師範学校に入学するために、佐敷町にあった准教員養成所に一年学んだ時からである。翌三年、二人とも揃って熊本県立第一師範学校に入学し、四年間京陵の学舎で同じ釜の飯を食った。尤も頼母さんは中組、私は北組でクラスは違っていたが、いつもよく会って話し、校内の売店によく饅頭を食べに行った。彼は実に落ちついておだやかな人物で、成績も優秀であったので、中組の副級長をしていた。私は兄のように考えた。

—津奈木での思い出—

ばたてゐるやうな、千々岩頼母さんが逝
去された上の凶報。全く驚いた。
余りの突然に愕然とした。そして
次第に悲しみとさみしがこみあ
けてきた。郷里に持つ五十余年來
のただ一人の心の友、頼母さんが
じくなつた。老境に入つて味おつ
友の死の悲しみはいよいよもない。
でも何か思い出を書けとの岡松君
の仰せで、思い出すままを綴るこ
とにする。

夏休みには津奈木と湯浦との間
をよく往來した。津奈木には頼
母さんの外に、同じ師範で学んだ
谷村兄弟・西兄弟や志崎さん、岡
松君など大勢いたので、私の方が
余計頼母さんの家に遊びに行つた
千々岩家に養子に行く前は永里姓
で、御両親の家は古中尾にあつた。
お父さんは実にお人善しで、お母
様は賢夫人で、よく可愛がつて貰
つた。中尾のずっと上の山盛の消

同級生だった千々岩君

志崎鳥末



明治三〇年四月二五日生乳	師範卒
大正 七年 三月	佐敷小訓導
大正 八年 三月	女師訓導
大正 九年 九月	改姓千々岩
大正一四年 三月	津奈木小
久木野小長	水俣小
昭和 一〇年 五月	松合小長
昭和 一三年 二月	二見小長
昭和 一五年 三月	県社会教育主事
昭和 一六年 二月	作數国民校長
昭和 一八年 二月	退職
昭和 〃 四月一日	郵便局長
昭和 三七年七月一日	退職
昭和四四年五月五日	死亡七三歳

を記された事実は君の人柄を表したものであると言えよう。

—養成所時代—



きてつき合つた

――同じ蚊帳――

およみ奥様はきれいで情感的な
婦人であつた。彼が熊本女師附属
の先生時代、私は坪井町の彼の家
に行つて、同じ蚊帳の中で彼の家
族と一緒に、幾晩か寝た。兄弟で
も出来ないことだ。私が高師を出、
京大を出てからは、滅多に会
かつたが、帰郷すれば必ず千
夫妻を訪ねた。昨年四月二十
星会と熊本で会つたのが最後
ろうとは。その時多大変元氣
たのに。想い出はつきみが紙
関係でこゝでとめる。頼母
よ安らかに眠られよ、実に美
真実の人の一生であつた。

鯨等を背負つて、旧国道トンネルの湯浦口から左へセツダ越えて一年間を送つた。帰宅の往來にはよく競走した。千々岩君は引き締つた体格で、競走といひ相撲といひ私達の相手でなかつた。

愈々失望の師範の入学試験を受験した結果、千々岩君は優秀の成績をもつて見事パスし、私は見事に落第した。持つて生れた素質とで省略する。

に、戦争遂行に没頭した。千々岩は郵政事務に携へる傍ら、遂行に、村行政に、側面から又は協力を惜まなかつた。そ友達としてでなく、只管日本として愛国愛村の真情の流露なかつたといふは信じた。終戦君の動行については衆知の他に適當な人が書かれると思で省略する。

— 神童 —

君は決して普通人ではな
 優れた頭腦の上良く読書する
 を忘れたなかつた。晩年になつ
 奈木町史編輯に余念がなかつ
 完成間近になつて昇天した
 は、君は心を残し、我々は返
 すも残念でならない。君は決
 普通人ではなかつた。私は斷
 る。神童であり、聖人であつ
 ち一生を通じて他人と喧嘩口論
 ことがなかつた。悪口や嘘を
 たことがなかつた。売名のハ
 りやでなかつた。他を魅し敬
 せる自然の人格が備つていた
 に他人から一言半句の批判す
 地がなかつた。若し君を批判
 人があつたとすれば、その人の
 状態を疑はざるを得ないであ